

## 宮崎県「中小企業の事業承継」議事要旨

---

(開催要領)

1. 開催日時：令和2年11月26日(木)14:00~16:00
2. 場所：宮崎県宮崎市 KITEN ビル
3. 登壇者：  
九州経済産業局産業部 中小企業課長 荒木久男  
かわにしスポーツ 有限会社かわにし 取締役会長 川西晃  
かわにしスポーツ 有限会社かわにし 代表取締役 興柁裕周  
国立大学法人 宮崎大学 産学・地域連携センター 特別教授 永山英也  
tee bank 代表 高萩誠  
株式会社西都すっぽん 代表取締役 野平幸一  
宮崎県事業引継ぎ支援センター 岡村巖

(プログラム)

1. 開会挨拶 荒木久男
2. 講演① 「事業承継について かわにしスポーツの事例紹介、  
事業引継ぎ支援センターへの相談の経緯など」川西晃、興柁裕周
3. パネルディスカッション「事業承継した方の体験談、その課題や解決策について」  
ファシリテーター 永山英也  
パネリスト 興柁裕周／高萩誠／野平幸一
4. 閉会挨拶 岡村巖

\* 敬称略・順不同

---

### 1. 開催挨拶

事業承継をなぜ進める必要があるのか。その背景について3点お話しします。1)経営者の高齢化の進行 2)60代が約半数、70代が約4割、80代では約3割の中小企業の経営者が後継者不在 3)2)を背景に年間4万社以上が休廃業、解散していることが挙げられます。

中小企業の貴重な経営資源が失われることに対して強い危機感のもと、経済産業省は支援をします。具体的には、法人版事業承継税制の抜本拡充、個人版事業承継税制の創設によりまして、事業承継時の贈与税、相続税の負担を実質ゼロとしたほか、事業引継ぎ支援センターによる、後継者不在の事業者に対するマッチング支援の充実などを実施しております。引き続きあらゆる政策を総動員いたしまして、中小企業の事業承継を全力で支援してまいります。

## 2. 講演①「事業継承について かわにしスポーツの事例紹介、事業引継ぎ支援センターへの相談の経緯など」川西（事業を譲った側）

長男は現職を辞める意向がなかったため、平成23年に親族承継を断念。平成24年から27年は個人への第三承継やM&Aを模索しました。そして平成28年、26歳と若かったですが、前向きな返答を聞いて従業員への承継を決断しました。その年に、宮崎県事業引継ぎ支援センターの指導のもと、3年間で課題解決する取り組みを開始。営業先を全部引き継ぎ、5カ年計画を作成し、引き継ぎを完了。令和元年10月には正式に社長交代を終えました。事業承継を考えたとき、まず公的機関・各県の事業引継ぎ支援センターを活用し、課題を把握し、解決することが重要だと思いました。また引き継ぎ者と経営者が事業の継続と雇用の維持を大前提に、全社で生産性向上に努力することで会社の価値を高め、社会貢献、地域貢献にも努めることで、多くの関係者・お客様の理解と協力が得られ、スムーズな事業承継が可能になると思いました。

## 2. 講演①興梠（事業継承者）

平成28年、ここで事業承継を引き受けることの打診があり、決断をしました。2019年の3年の準備期間を経て、令和元年、代表取締役就任。現在30歳です。私がここで伝えたいことは、事業承継では育ちや学歴、年齢は関係なく、挑戦する気持ちと会社の想いをつなげられるかが重要で、目標に向けてしっかりと準備をして、前に進んでいけば未来は明るくなるということです。決断に至ったのは、生まれ変わってもスポーツ店をやりたいという会長の姿、今の社員とこれからも一緒に働いていきたいという思い、会社の事業の安定性と地域からの信頼と将来性があること、この3点でした。川西会長から引き継いだ想いをもとに、スポーツを通してこれまで以上に地域への貢献をし、宮崎でより高い信頼を獲得し、揺るぎのない事業継続の基盤を構築すること。かわにしスポーツの明るい未来を社員みんなとつuckingていきたいです。

## 4. パネルディスカッション

### ①永山

私は、2020年に宮崎大学で新設された地域人材部門で、次世代経営者の育成や県内全体の大学で共通の学びを作る、あるいは中高生のためのキャリア教育など、多様な人材の育成を図るポジションとして、いろいろな仕事にチャレンジさせていただいています。学生起業や大学発のベンチャーなどの新しいビジネスも必要ですが、一方でしっかりとした経営資源や、取引先を持っている既存企業をいかに承継していくか、発展させていくかというのは大きな課題です。今回承継をされた3名の方にお話を伺って、そのヒントを探り出していただければと思います。

### ②高萩

私は東京出身で、高知県や宮崎県で地域おこし協力隊として活動しています。高知県で当初頼まれたのは、耕作放棄地や空き家の調査でした。そこから自分で活動の幅を広げ、ブラウンマッシュルームの生産支援をはじめ、廃校を利用した山村自然楽校という宿泊施設の支援も行い

ました。宮崎県では、豊富な食材を活用して地域の魅力を食べながら考え、語り合う会を年4回行っています。今年はコロナで2月に1回実施しただけですが、ふるさと納税でハムとハンバーグを出品しました。このような活動を通じて、いろいろな人との出会いから、tee bank というお店を事業承継し、川南にお店を開いて現在に至っています。引継ぎを行う際、準備期間が 10 カ月ありましたが、いろいろな研修を受けられたのは助けになりました。

### ③興相

2019年10月に地域で40年続くスポーツ用品店を事業承継しました。小さなスポーツ店で、地域の学校やスポーツ施設、スポーツチームに出向いて商品の販売、修理を行っています。お客様とともにあるスポーツ店ということで、物品の販売だけでなく、地域とお客様とより密接に関わるように努めています。会長から打診を受け、引き継いだわけですが、想いをつなげていくことができうれしいです。私も継承の準備期間に、引継ぎ支援センター、金融機関などに相談の上で解決できたのは良かったです。

### ④野平

私は前職でモックアップを製作する会社におりましたが、今はすっぽんの養殖や加工、販売を行っています。前オーナーは建設業のかたわらすっぽん事業を行っていましたが、卵から生産販売まで4、5年かかるため、途中から事業継承できたのは理想的な形でした。経営の経験がない、お金の借り方も知らない、事業計画書も書いたことがない、そうした不安は商工会議所で学び、準備を進めました。初めての経験だったので、商工会議所や引継ぎ支援センターの力を借りることができて助かりました。私は知人のいないところでビジネスを始めたので、人脈づくりは今でも頑張っています。

## 4. 閉会挨拶

事業引継ぎ支援センターは、相談企業に合った引受先候補を探して紹介し、また引き継ぎに向けて、課題整理や手続きなどを経験豊富な専門家が助言・支援します。公的機関ですので相談は無料、また秘密厳守は徹底していますので、安心してご利用いただけます。センターでは、幅広い相談に対応しておりますので、後継者問題については一人で悩まず、気軽にご相談いただければと考えております。ご活用をお待ちしております。

以上